



ウズベキスタン料理を紹介(11月7日、国際キッチンの会場で)

ウズベキスタンと東川町との交流の架け橋に―と今年8月に来町しました。「私の国では、小学生も外国語を勉強しています。子どもたちは世界のことをよく知っている。東川の小学生にも中学生にも、ウズベキスタンのことを紹介したい」。町の国際交流員は、ナノさんを含めて5カ国5人。それぞれの国の料理を紹介する町民向け料理講座は1カ国増えて「5カ国キッチン」になりました。今度はナノさんがまとめ役です。

一番大事な仕事の一つは、今年から始まった高校生国際交流写真フェスティバルでタシケント市から参加するウズベキスタン写真学校チームのサポート。「今年はサポートできなかったので、来年生徒たちが来たら責任を持ってやらないと…」と今から気を引き締めています。

情報を相互に随時紹介し、ウズベキスタンからの来町者サポート、文書の翻訳など、結構多忙です。ウズベキスタンの文化とロシア語

を教える週1回の町民講座も始まりました。町民向け料理講座は「日本人の口に合う料理、作りやすい料理、食材が手に入りやすい料理を考えなくては...」。大学3年生の時からリツェー(高校)で9年間日本語教師を勤め、その後日本人材開発センターへ。日本語教師

の会長を務めていたそうです。日本語を習いたいと思っている人は国内に千500人くらい。外国語の中では3番目か4番目という人気ぶりだそうです。



ウズベキスタン文化講座(10月7日、農村環境改善センター)

に日じ上がっているそうです。「まじー?」「なんだこりやー」など、今まで勉強してこなかった言葉で会話するようになってきたので、「表現、分らないです」。アサリさん、シリンさん2人は、ウズベキスタンの小中学校を退学して東川中学校に転入しました。これからは日本で教育を受けるつもり。中学3年生のアサリさんは来年高校受験、引き続き翌年はシリンさんの受験も控えています。姉妹2人が日本で高校受験期を迎えることになり、母親として進路の悩みも尽きません。

「学校で進路相談がありました。とても心配。向こうの学校をすでに退学しましたから、日本で高校を卒業してもらいたい。毎日、毎日、子どもたちと話しています」。



めだかクラブのハロウィンパーティー(10月11日、農村環境改善センター)

母国に残してきたご主人に5歳と2歳の年下の姉妹を託し、長女アサリさん(15)、二女シリンさん(13)と3人で来日しました。3カ月を過ぎ、日本の暮らしにも慣れてきたようです。

2人の日本語レベルは日

ニグマノヴァ・ナルギーザ・サイドライエヴナさん

ウズベキスタン共和国タシケント市出身、36歳。ニックネームはナノさん。タシケント国立東洋学大学(経済学部日本語専攻)、同大学大学院修士卒業。タシケント国立東洋学大学付属リツェー(高校)の日本語専任講師を経て、JICA(国際協力機構)の協力機関・ウズベキスタン日本人材開発センター勤務(日本語初級、中級)。東洋学大学付属リツェー(日本語初級)。国際交流基金、(財)日本国際教育支援協会が運営する日本語能力試験N2取得(日常的な日本語理解力、ニュースや一般会話など幅広い場面で日本語を理解できる)。外国語はほかにロシア語、英語。



タシケント市で毎年開かれている教育フェアのスタッフ(ナノさんは前列左から3人目)